

GIS A NEWS LETTER

地理情報システム学会ニューズレター 第70号

発行日 ● 2009年 6月20日
発行 ● 地理情報システム学会事務局

目次

2009年度 研究発表大会のお知らせ	1p
第11回日韓シンポジウムのお知らせ	2p
代議員(社員)総会・理事会報告	3p
2008年決算・2009年予算報告、学会からのお知らせ	4p

新旧GISA予算・決算報告表	5p
委員会報告、支部報告、分科会報告	7p
学会後援・協賛行事などのお知らせ、GIS関連書籍の書評	8p
学会周辺の動向報告、事務局からのお知らせ	9p

2009 年度 研究発表大会のお知らせ

大会実行委員会 委員長 貞広 幸雄

GIS 学会員の皆様

来る 2009 年 10 月 15・16 日(木・金)、新潟朱鷺メッセにて 2009 年度研究発表大会を開催いたします。本年度は、通常の研究発表(講演、ポスターセッション)に加え、東京大学坂村健教授、新潟大学間瀬憲一教授、新潟県防災局長飯沼克英氏他による特別講演、防災 GIS に関するワークショップ、GIS 製品紹介セッションなど、多彩なプログラムを予定しております。

講演発表、ポスターセッション発表については、下記の要領(例年と同様です)にてお申し込み下さい。これらに加え、講演やワークショップ、シンポジウム、チュートリアルセッション(GIS 技術紹介、ソフトウェア講習など)、GIS 製品・利用例紹介セッションなども、個人会員・賛助会員の方々からご提案いただけます。これらは機器展示と併せてお申し込みいただくことも可能です。詳細については、貞広大会実行委員長(E-mail:sada@ua.t.u-tokyo.ac.jp)までお問い合わせ下さい。なお当日は、地元高校生や自治体職員などの見学も予定されております。ポスターセッションや展示などでは初心者向けの解説があるとわかりやすいかと思います。

皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。なお、プログラム構成などについては今後変更されることがございますので、最新の情報については学会ホームページ(<http://www.gisa-japan.org>)をご参照下さい。

■ 発表形式

講演発表とポスターセッション発表があります。

講演発表については、論文の提出が必要です。論文は、地理情報システムに関する理論研究・応用研究の成果で、原則として未発表のものに限ります。また、独創性・完結性がないものの発表は認めません。

ポスターセッション発表については、研究形成段階の討論や調査・活動報告などでも結構です。また、論文を提出しなくても結構です。自由で活発な情報交換の場として活用ください。また、論文が提出されれば、論文集に掲載されます。

講演発表、ポスターセッション発表ではいずれも、商業宣伝的な内容のものは認められません。機器展示あるいは GIS 製品・利用例紹介セッションにお申し込み下さい。

■ 応募資格

(1) 地理情報システム学会員であるか否かを問いません。ただし、発表者または共同研究者(連名者)のうち、いずれか1名は学会の個人会員(正会員または学生会員)である必要があります。また、賛助会員については、1口につき個人会員1名分の発表資格を有するものとみなします。なお、発表者となるのは、賛助会員枠を含めても1名につき1題に限ります。但し、応募者が複数の発表について共同研究者(連名者)となることはかまいません。また、同題目で講演発表とポスターセッション発表の両方を行ってもかまいません。

(2) 大会発表会場において指定された日時に発表できること。発表日時の指定は受け付けません。また、会場の都合により発表総数を制限する場合があります。

(3) 2009 年度までの年会費完納者。

■ 発表申し込み手続き(必要なファイル等は、学会ホームページ上からダウンロードできます)：

1. アブストラクトの提出

- ・7月1日(水)～7月17日(金)正午(必着)の期間内に、学会 HP 上にある Excel 形式のファイルに記入の上、E-mail にて conf@gisa-japan.org まで添付ファイルでお送り下さい。
- ・サブジェクト名は**筆頭発表者の姓名のみ**を記入し、「大会申し込み」等の文言は含まないで下さい。
- ・ファイルを受理した段階で速やかにお知らせいたします。
- ・発表の可否は、7月31日(金)までに E-mail にてお知らせいたします。併せて、プログラム及びアブストラクトを学会 HP に掲載いたします。

2. 講演論文集用原稿の提出

- ・7月1日(水)～8月21日(金)正午(必着)の期間内に、以下の3点を学会事務局へ提出してください。

GISA-NL No.70 (2009/6/20)

- (1) 発表論文原稿3部(そのまま版下として印刷所に入稿します。作成要領は学会 HP をご参照下さい)
- (2) CD-ROM1 枚(PDF 形式の発表論文原稿、一発表につき一枚です。表面には発表者名を明記してください。)
- (3) 著作権譲渡契約書(学会 HP をご参照下さい)
- ・上記受付期間内に原稿が提出されなかった場合には、発表申し込みを取り消させていただきますのでご注意ください。
- ・カラーページをご希望の場合には、頁番号を指定の上、
 - 1) 学会 HP 上にあるフォームを記入して送付すると同時に、
 - 2) 原稿に付箋などを付してお知らせ下さい。
 1 枚(奇数・偶数頁の裏表で)25,000～30,000 円の費用負担をお願いいたします。
- ・MS-Word などを用いて作成した原稿の PDF 化に関しては学会 HP を参照してください。フリーソフトも紹介されています。なお、PDF の品質は、そのまま印刷に耐えるレベルのもの(プレス品質)をお願いいたします。
- ・使用言語は日本語または英語とします。
- ・原稿の仕上がりサイズは A4 版で、原則 4 ページとします。奇数ページ数の原稿、7 ページ以上の原稿は受け付けません。
- ・発表者に連絡がつきにくい可能性がある場合は、申込書に確実な連絡先も明記してください。原稿の不備等で連絡を差し上げる場合があります。
- ・発表原稿の編集・出版の権利は、地理情報システム学会に帰属します。

送付先 (学会事務局)
〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16
学会センタービル 4F
地理情報システム学会事務局
TEL&FAX: 03-5689-7955

大会・懇親会参加費等:

正会員または賛助会員卒の参加者 2,000 円
学生会員 1,000 円
非会員 (一般: 大学院生以上) 4,000 円
非会員 (大学学部生) 1,000 円
高校生以下、70 歳以上 無料
(一般・大学院生以外の非会員は、必ず、学生証または年齢を証明するものをご呈示ください)
懇親会参加費 4,000 円

- ・機器展示は参加費無料です。
- ・当日は、領収書を発行いたします。つり銭のないようお願いいたします。

■ 第 5 回大会優秀発表賞

学生会員の発表レベルの向上を図る目的で、本年度も「大会優秀発表賞」を設けます。以下の条件を満たす方が対象となります。

- ・本大会の学生会員であること (大会の申込書と共に入会届けを提出した方を含みます。但し、2009 年度までの年会費完納者)
- ・修士号未修得であること (但し社会人学部生、社会人大学院生を除く)

- ・講演発表の発表者であること
- 受賞候補者は、研究(論文)内容、発表技術の優秀者からセッション司会者が推薦し、学会賞委員会の中に設置される大会発表賞小委員会の議論を経て受賞者を決定します。受賞者数は特に定めません。

尚、発表受賞者には、賞状と副賞を後日送付すると同時に、GISA ニュースレター72号に所属・氏名を発表します。

■ 機器展示募集のご案内

展示内容: パソコンまたはワークステーション上で稼動する GIS のデモソフトとします。
応募資格: 学会賛助会員に限ります。出展費用は無料です。
応募要領: 下記の内容を明記の上、E-mail にて事務局にお送りください。

会社名(所属)
連絡先住所、電話番号、FAX、E-mail
担当者名
展示ソフト名称
展示概要(デモンストレーションの内容 200 字程度)
展示システム(パソコン、ワークステーション、大型液晶ディスプレイ)
希望電気容量
希望日(連日も可)

受付期間: 2009 年 7 月 1 日(水)～8 月 31 日(月)
※ 8 月 7 日(金)までの受付分は、展示概要をニューズレター71号に掲載します。(それ以降の受付も、会場配布のパンフレットには掲載されます)

出展の可否: 9 月 25 日(金)までに機器展示要項と共に展示企業連絡先へ E-mail で通知します。

注意事項: 会場の都合により、各日の展示件数及び、1 社当たりの機器構成(電気容量)について事務局が調整することがあります。

【第 11 回日韓シンポジウムのお知らせ】

【渉外委員会 委員長:小口 高】

毎年開催しております韓国 GIS 学会 (KAGIS) との共同シンポジウムを今年も行います。今年は韓国・済州島で開催されます。ふるってご参加下さい。

- 1) 開催日: 2009 年 11 月 5 日(木)～6 日(金)
- 2) 会 場: 韓国済州島西帰浦 KAL ホテル(http://japan.kalhotel.co.kr/file/seogwifo_comany01_1.asp)
- 3) 論文受付などのスケジュール
参加申請・アブストラクト: 9 月 7 日(月)正午必着
論文 (Full Paper) 提出: 10 月 5 日(月) 正午必着
提出方法: メール添付
提出先: 地理情報システム学会事務局
office@gisa-japan.org
- 4) フォーマット: 言語は英語に限ります。

【参加申請・アブストラクト】

i) 氏名 (日本語も)

GISA-NL No.70 (2009/6/20)

- ii) 所属 (日本語も)
 - iii) 肩書 (KAGIS 側の希望により、Mr. や Dr. 等の別があると助かります。また、学生・院生はその旨を明記して下さい)
 - iv) 連絡先メールアドレス
 - v) 演題 (申請段階では仮題でも可)
 - vi) キーワード (3 語以内)
 - vii) アブストラクト (300 語以内)
- (学会 HP 上に参加申請様式を掲載していますので、参照して下さい)
- 【論文 (Full Paper) のフォーマット】
- i) MS Word
 - ii) A4 サイズ
 - iii) 10 ページ以内 (含 Abstract、本文、参考文献)
 - iv) 余白上下各 20mm / 左右各 30mm
 - v) ヘッドç / フッター各 15mm
 - vi) 作成順はタイトル (14pt, Bold)、著者 (11pt)、所属 (10pt)、Abstract (12pt)、本文 (11pt)、参考文献 (10pt)

【代議員(社員)総会・理事会報告】

[総務担当理事: 今井 修]

■ 2008 年度一般社団法人地理情報システム学会第 2 回代議員 (社員) 総会報告

日時: 2009 年 3 月 30 日 (月) 14:00~16:00

場所: 東京大学工学部 14 号館 141 号室

会の成立: 代議員 (社員) 総数 50 名のうち、出席 22 名、代理出席 1 名、書面議決 21 名により総会の成立が報告。

議題: 第 1 号議案 理事及び監事の選任について

定款 23 条第 1 項により、代議員による選挙が行われ、以下の代議員が理事、監事として選任され、その後開催された理事会により、①会長、副会長、②事務局長、③担当理事が選任されました。

会長	柴崎亮介
副会長	吉川眞
事務局長	大澤裕
総務担当理事	今井修
財務担当理事	太田守重
企画・SIG 担当理事	浅見泰司
渉外・支部担当理事	小荒井衛
広報・編集担当理事	玉川英則
大会・学会賞担当理事	巖網林
資格・教育担当理事	碓井照子
監事	大佛俊泰
監事	長坂俊成

報告 1 代表理事の職務執行状況について (ニューズレター 69 号に掲載)

- ・一般社団法人の設立の経緯
- ・諸規定の策定等
- ・任意団体地理情報システム学会会員の
新法人への入会
- ・代議員の選出
- ・2009 年度事業計画及び収支予算の作成

報告 2 2009 年度事業計画及び収支予算

別掲

報告 3 非常勤職員の雇用について

■ 2009 年度一般社団法人地理情報システム学会第 3 回代議員 (社員) 総会報告

日時: 2009 年 5 月 16 日 (土) 17:00~18:00

場所: 東京大学工学部 14 号館 144 号室

会の成立: 代議員 (社員) 総数 50 名のうち、出席 27 名、代理出席 1 名、書面議決 16 名により総会の成立が報告。

議題: 第 1 号議案 任意団体からの資産移管について

任意団体地理情報システム学会の会員は、2009 年 4 月 1 日をもって、一般社団法人地理情報システム学会に移管しました。これに伴い、任意団体地理情報システム学会の資産の全額を、当一般社団法人に移管したく、定款 34 条八項「長期積入金並びに重要な財産の処分及び譲り受け」の定めにより、受け入れの可否を諮るものです。

本議案は、代議員 (社員) の賛成により承認されました。

以下、大澤事務局長より代議員に報告されました。

報告 1 地理情報システム学会 2008 年度事業報告について

- ・2008 年 4 月 1 日~2009 年 3 月 31 日の以下の主な活動内容を報告

①出版物等の刊行 (ニューズレター 66 号~69 号、「GIS 理論と応用」16 巻 1 号~2 号、講演論文集第 17 号)、②学術研究発表大会 (2008 年 10 月 23 日~24 日 東京大学生産技術研究所、参加者 291 名、その他)、③内外の関連学会、関係機関との交流 (共催 6 件、協賛 7 件、後援 20 件、その他)、④その他 (地方事務局、SIG 活動の支援)

報告 2 地理情報システム学会 2008 年度会計監査報告について

2009 年 4 月 28 日大佛俊泰監事、長坂俊成監事による会計監査が実施され、適正に処理されたことが報告された。

報告 3 一般社団法人地理情報システム学会 2008 年度会計監査報告について

2009 年 4 月 28 日大佛俊泰監事、長坂俊成監事による会計監査が実施され、適正に処理されたことが報告された。

報告 4 委員会・地方事務局・SIG の報告及び計画について

事前配布された内容について報告された。

報告 5 2009 年度一般社団法人地理情報システム学会研究発表大会について

2009 年 10 月 15 日~16 日 新潟市朱鷺メッセ: 新潟コンベンションセンターで開催予定の概要について報告された。尚、2010 年度第 19 回大会は、立命館大学衣笠キャンパスを予定している。

■ 一般社団法人地理情報システム学会第 4 回理事会

日時: 2009 年 3 月 30 日 (月) 16:00~17:00

場所: 東京大学工学部 14 号館 141 号室

出席者: 理事全員 (当日選任された理事)

議題：第1号議案 会長及び副会長の選任について

第2号議案 事務局長の選任について

第3号議案 担当理事の選任について

第4号議案 非常勤職員の雇用について

第1号議案～第3号議案の結果については、代議員(社員)総会報告のとおり。

第4号議案については、理事、監事からの意見を聞き、事務局長に委ねられた。

■ 一般社団法人地理情報システム学会第5回理事会

日時：2009年5月16日 15:00～16:45

場所：東京大学工学部14号館144号室

議題：審議事項

第1号議案 任意団体からの資産移管について

第2号議案 2009年度一般社団法人地理情報システム学会研究発表大会について

第1号議案～第2号議案について、当日開催される代議員(社員)総会の内容について、事務局長より説明され、承認された。

第3号議案 委員会・支部・SIG経理規程について IT理事会に諮り審議中であった内容について、事務局長より説明され、承認された。

報告事項

当日開催される代議員(社員)総会で報告される、報告事項1～4(総会内容参照)の内容について、事務局長より報告された。

■ 任意団体地理情報システム学会清算事務報告

日時：2009年5月22日(金)16:30～17:15

場所：一般法人地理情報システム学会事務局

清算事務期間(2009年4月1日～5月13日)を設け、清算人から以下の清算事務が報告されました。

(1)清算人は現金預金を平成21年5月16日の総会決議により、下記法人に寄附しました。

現金 46,237,932円を一般社団法人地理情報システム学会へ寄附。

(2)清算人は、資産・負債を平成21年5月16日の総会の決議により下記法人に引き継ぎました。

資産合計 3,238,413円、負債合計 147,404円を一般社団法人地理情報システム学会へ引き継ぎ。

以上のとおり、清算を完了したことを報告します。

平成21年5月22日

東京都文京区弥生2丁目4番16号学会センタービル4階
地理情報システム学会 清算人 浅野涼子

【2008年度決算・2009年度予算報告】

【財務担当理事：太田 守重】

法人化に伴い、旧GISAの2008年度決算報告、新GISAの2008年度決算及び2009年度予算報告を行う。

■ 2008年度決算について

2008年度任意団体GISAにおける前期の定期預金300万円の利息は特定資産運用収入として計上した。また、昨年10月22日に行われた秋季総会において、新法人へ50万円の寄付

を行う補正予算が組まれたため、新法人の2008年度事業活動収入は50万円となった。

■ 2009年度予算について

任意団体GISAは2009年3月31日をもって解散し、その全財産は新法人へ移管すること(2009年5月16日定期総会にて承認)を前提として新法人の予算を作成した。法人化に伴い、これまで以上に支出用途を明確にする必要がある。一方で地方支部や委員会の活動の活性化や円滑な運営を支援すべく、予算の組み替えや補正予算の編成への対応、収入や支出時の手続き処理の確立が求められる。

□収入の部

新法人においても会費を収入の軸とするとともに、過年度の未収入金の確保に努める。また、昨年度は独立会計としていたGIS資格認定協会(GISCA)を、GIS学会の下部組織として位置づけたことにより、申請料・登録料による収入を計上する(6.資格・認定事業)。

□支出の部

2009年度は新潟朱鷺メッセでの大会開催を予定しており、この会場費や旅費交通費を計上した。その他シンポジウムの開催予定はない。

また、これまで本部事務局運営費から支出していた委員会活動は、活動状況を把握するため、「4.委員会運営費」として個別に予算を計上している。なお、GISCAの運営費もこれに含まれる。

用途を明確にする目的から事業活動支出の中で予備費を計上せず、別途予備費支出として予算を立て、不測の事態に対応する。

□その他

投資活動として、動かす予定のない資金から2000万円を定期預金とすることとした。また、新しくWeb上にて会員情報を確認できる会員専用ページの作成費やSSL化、サイトやサーバ管理に伴う諸費用を「ソフトウェア取得支出」として計上している。

以上より経常収益計(62,446)－経常費用計(20,265)＋投資活動収支差額(△21,417)－予備費支出(1,290)＝当期収支差額(19,474)となる。(詳細は5頁～6頁参照)

【学会からのお知らせ】

■ IT理事会報告(一般社団法人化以降)

・第1号(2008年12月14日)

2008年度予算(注：任意団体ではなく、一般社団法人の)が、承認された。

・第2号(2009年1月6日)

代議員選挙管理規程が、承認された。

理事及び監事の選任に関する規程が、承認された。

選挙管理委員長が、承認された。

・第3号(2009年1月27日)

経理規程が、承認された。

会計基準が、承認された。

・第4号(2009年2月19日)

委員会の設置及び運営に関する規程が、承認された。

支部の設置及び運営に関する規程が、承認された。

GISA-NL No.70 (2009/6/20)

■ 新 GISA 2008 年度決算・2009 年度予算報告

(単位：千円)

事業活動収入	新GISA 2008年度決算	新GISA 2009年度予算	事業活動支出	新GISA 2008年度決算	新GISA 2009年度予算
1. 特定資産運用収入	0	50	1. 大会開催費	0	2,151
2. 入会金収入	0	400	人件費	0	300
3. 会費収入	0	13,670	会場費	0	1,000
(1)正会員会費収入	0	8,750	会議費	0	0
(2)学生会員会費収入	0	450	旅費交通費	0	180
(3)賛助会員会費収入	0	4,470	懇親会費	0	400
過年度会費収入	0	0	通信運搬費	0	71
4. 大会参加費収入	0	1,160	消耗品費	0	200
(1)正会員	0	400	2. 刊行物支出	0	3,550
(2)学生会員	0	60	NL	0	450
(3)非会員	0	280	GIS-理論と応用	0	1,750
(4)懇親会費	0	400	講演論文集	0	1,250
(5)学部生	0	20	CD-ROM	0	100
5. 刊行物収入	0	2,440	3. 分科会運営費	0	900
(1)GIS-理論と応用頒布収入	0	800	4. 委員会運営費	0	1,500
(2)大会講演論文集頒布収入	0	1,350	5. 特別シンポジウム開催費	0	0
(3)大会誌(CD-ROM版)	0	150	6. 国際シンポジウム開催費	0	0
(4)用語集	0	0	会場借料	0	0
(5)刊行物送料	0	100	消耗品費	0	0
(6)講演論文集既刊	0	40	旅費	0	0
6. 資格・教育認定事業	0	625	謝金	0	0
申請料収入	0	250	その他	0	0
認定登録料収入	0	375	7. 特定寄付支出	0	50
7. 補助金等収入	0	991	その他事業費	0	0
8. 寄付金収入	500	43,000	8. 本部事務局運営費	344	12,004
9. 雑収入	0	110	人件費	0	5,700
(1)受取利息収入	0	10	法定福利費	0	500
(2)その他収入	0	100	会議費	0	40
経常収益計	500	62,446	旅費交通費	73	520
投資活動収支	新GISA 2008年度決算	新GISA 2009年度予算	通信運搬費	148	1,150
1. 投資活動収入計	0	0	消耗品費	0	900
2. 投資活動支出			修繕費	0	50
特定資産取得支出	0	2,000	賃借料	0	1,659
定期預金支出	0	2,000	租税公課	123	75
固定資産取得支出	0	1,417	負担金	0	10
ソフトウェア取得支出	0	1,417	手数料	0	70
投資活動収支差額	0	△21,417	支払報酬	0	630
予備費支出	0	1,290	雑支出	0	10
当期収支差額	0	19,474	寄付金	0	0
前期繰越収支差額	0	0	9. 地方事務局運営費	0	800
次期繰越収支差額	0	19,474	経常費用計	344	20,265

■ 旧 GISA 2008 年度決算報告

(単位:千円)

I 収入の部	旧GISA 2008年度決算	旧GISA 2008年度予算	II 支出の部	旧GISA 2008年度決算	旧GISA 2008年度予算
1. 特定資産運用収入	11	0	1. 大会開催費	782	900
2. 入会金収入	300	200	人件費	96	290
3. 会費収入	14,150	15,170	会場費	61	160
(1)正会員会費収入	9,170	9,900	会議費	51	80
(2)学生会員会費収入	600	890	旅費交通費	0	0
(3)賛助会員会費収入	4,380	4,380	懇親会費	500	300
過年度会費収入	2,091	0	通信運搬費	0	20
4. 大会参加費収入	896	1,000	消耗品費	75	50
(1)正会員	336	300	2. 刊行物支出	3,599	3,550
(2)学生会員	25	100	NL	492	450
(3)非会員	268	320	GIS-理論と応用	1,602	1,750
(4)懇親会費	236	280	講演論文集	1,410	1,250
(5)学部生	31	0	CD-ROM	96	100
5. 刊行物収入	2,393	3,000	3. 分科会運営費	219	900
(1)GIS-理論と応用頒布収入	772	1,000	4. 委員会運営費	202	500
(2)大会講演論文集頒布収入	1,346	1,700	5. 特別シンポジウム開催費	62	80
(3)大会誌(CD-ROM版)	135	200	6. 国際シンポジウム開催費	1,200	1,200
(4)用語集	2	0	会場借料	61	50
(5)刊行物送料	113	100	消耗品費	136	50
(6)講演論文集既刊	26	0	旅費	403	1,000
6. 資格・教育認定事業	0	0	謝金	320	100
申請料収入	0	0	その他	281	0
認定登録料収入	0	0	7. 特定寄付支出	50	550
7. 補助金等収入	1,200	1,200	その他事業費	20	0
8. 寄付金収入	80	0	8. 本部事務局運営費	12,249	11,598
9. 雑収入	108	151	人件費	5,837	5,500
(1)受取利息収入	8	11	法定福利費	599	460
(2)その他収入	100	140	会議費	33	20
経常収益計	21,229	20,721	旅費交通費	574	500
			通信運搬費	1,273	1,350
			ソフトウェア償却費	77	0
			消耗品費	623	1,200
			修繕費	54	0
			賃借料	1,658	1,438
			租税公課	5	0
			負担金	0	0
			手数料	70	0
			支払報酬	630	630
			雑支出	315	500
			寄付金	500	0
			9. 地方事務局運営費	972	800
			10. 予備費	0	643
			経常費用計	19,354	20,721

* 任意団体GISAは2009年3月31日をもって解散した。よって09年度予算は作成しない。

【学会からのお知らせ】

■ IT 理事会報告（一般社団法人化以降）

- ・第5号（2009年2月19日）
入会申込書、会員変更届、退会届の様式が、承認された。
- ・第6号（審議中）
委員会および支部、SIGの経理に関する規程
- ・第7号（2009年4月22日）
任意団体地理情報システム学会から150万円を譲り受けることについて、承認された。

【委員会報告】

■ 編集委員会

【玉川 英則】

『GIS—理論と応用』に関してのお知らせ

1. 第1次原稿の制限ページ数を遵守して下さい
Webの投稿規定にすでに明記されているとおり、第1次原稿（最初に投稿される原稿）については、原稿の種類別に定められた制限ページ数を厳守して頂くことになっております。また、当然のことですが、誤字・脱字なきよう十分精査の上ご投稿下さい。
2. 「特集」企画のお知らせ
定例号の中で、通常の投稿と並行して、特定のテーマに焦点を当てて原稿を募集する「特集」を企画しました。最初のテーマとして、「測位技術とGIS」を予定しております。詳細については、メールニュースNo. 30や学会WebサイトのHot Topicsでお知らせしておりますので、ご参照ください。

■ GIS 資格認定協会

【碓井 照子】

2008年度は、資格認定や広報、協会運営及び有資格者会議の開催などの継続的な活動に加え、新たにメールマガジンの発行やアンケートを実施し、有資格者と協会及び有資格者間のコミュニケーション向上を重視した活動を行った。

メールマガジンは夏、秋、冬の計3回発行し、GIS最新動向や教育プログラム・イベントの紹介など協会からの情報発信に加え、自己紹介・意見表明という形で有資格者からも情報提供していただいた。また、有資格者の大学での非常勤講師の経験・社会人教育の経験、インターンシップの受入に関する実態の把握のためアンケートを実施した。さらに地理情報システム学会の改称の検討にともない、GIS分野のエキスパートとして有資格者への意見募集を行い、その結果を学会へ報告した。

有資格者同士が直接意見交換できる場として、GIS上級技術者会議を開催した（2009年1月27日）。基調講演に三田啓氏（会計検査院事務総長官房渉外広報室長、GIS上級技術者）、関本義秀氏（東京大学CSIS特任講師）をお招きした講演会と懇談会の2部構成で実施し、年度末ながら多数の有資格者にご出席いただけた。

その他、GIS学会の法人化に伴うGISCAの各規約・規定の見直し、「GIS名誉上級技術者」の検討、連携学会である（社）日本リモートセンシング学会が発行するCPD単位とGISCAの貢献達成度ポイントの対応の整理等を行った。資格認定数も順調に増え2009年4月30日現在、GIS上級技術者122人（うち30名が2008年度認定）、教育認定件数24

件（うち3件が2008年度認定）となった。

【文責：太田 守重】

【支部報告】

■ 関西支部の活動報告

【吉川 眞】

タイトルは「関西支部の活動報告」となっていますが、2008年度一杯は、もちろん「関西地方事務局」としての活動です。当組織が主催・関係する3つの事業が2007年度と同様に年度末に集中して開催されました。開催順に報告いたします。

まず平成21年2月14日（土）に、『第4回若手による技術研究発表会』を日本写真測量学会関西支部との共催で、常翔学園（旧学校法人・大阪工大摂南大学）大阪センターにて61名の参加者を得て開催しました。GISの運用・利活用、空間情報の生成や利用・応用といった分野に携わる30歳以下の「若手」による技術研究発表会で、社会人3名、学生9名の総勢12人が3つのセッションに分かれて発表しました。年度末のため参加者、発表者共に偏りが見られるところから、2009年度は8月開催を予定しています。

2つ目は、平成21年2月26日（木）に開催した『第9回関西地域GIS自治体意見交流会』です。「地域社会とGIS」と銘打ち、とよなか男女共同参画推進センターすてっぷホールにて、満員となる144名の参加者を得て、主催者に日本写真測量学会関西支部と豊中市も加えて開催しました。基調講演をお願いしました兵庫県立大学の福島徹教授を始めとする5名の講師による講演とパネルディスカッションにより、地域に根ざしたGISの展開と活動の可能性を探るため、情報交換を行いました。パネルディスカッションは、昨年と同じくコーディネータを日本写真測量学会関西支部長であり元・豊中市の柳川氏にお願いし、聴講者より寄せられる質問やコメントに回答するかたちで進められました。交流会後の懇親会にも半数以上にあたる75名の方々が参加され、遅くまで活発な交流が続きました。2009年度は第10回という節目を迎えますので、記念となる交流会の開催を企画したいと考えています。

最後は、平成21年3月24日（火）に大阪府立文化情報センターの「さいかく」ホールで開催されました『GIS大縮尺空間データ官民共有化推進協議会』総会です。協議会には当組織から碓井元会長と吉川が毎年度アドバイザーとして参加していますが、年度末の総会では、平成20年度活動報告と平成21年度取組計画について、両人がそれぞれ講評を行いました。

今年度もこの3件の活動は継続されることになっていますので、関西地区の会員諸氏の積極的な参画をお願い申し上げます。

【分科会報告】

■ 空間IT分科会

【有川 正俊】

空間IT分科会から、空間情報規格スタジオの開催を案内いたします。

＜空間情報規格スタジオ＞

初級編 7月6日（月）－8日（水）

中級編 7月23日（木）－24日（金）

場所：東京大学 駒場リサーチキャンパス

詳細については、

http://www.s-it.org/SID_School/

をご覧ください。

このスタジオでは、講義と演習を通じて、空間情報規格の内容を効率良く理解し、体得できる実践的な場を提供いたします。初級編は、空間データ製品仕様書を作成します。中級編は、パソコンでXML文書を作成・表示し、空間データの視覚化・地図との関係を理解します。

12月にも、同様のスタジオ（初級編・中級編）を開講します。

また、空間ITに関する研究ワークショップを今秋に開催する予定です。

<http://www.s-it.org/>

■ セキュリティ分科会

【川添 博史】

昨年度は経済産業省より地理空間情報活用推進研究会の取組と地理空間情報活用推進に係る三次元地理空間情報の体系化について、データベース振興センターから時空間情報の利活用の状況、LBCS/SVG 委員会活動と GIS 総合研究所からは空間情報とデータの安全について、地理空間情報の活用と粒度コントロールの講演を実施、参加者相互に意見交換を行った。

今期は国土交通省・総務省・国土地理院からも有用なデータの活用について地理空間のトピックスに関する講演者を招聘し、現実の利活用において留意すべき点を検討しながら進めていきたい。社会が安心して利用できるような地理空間情報の活用を実体経済に反映させることも視野に入れ分科会を進めていきたい。

【文責:国司 輝夫】

【学会後援・協賛行事などのお知らせ】

■共催■「空間情報シンポジウム 2009」

産官学の各分野で空間情報システムを利用されている方々に最新の活用事例や技術情報を発表いただき、多くの方に参加、聴講いただくことで、空間情報について議論が深まり、業界の活性化につながればと思っております。

主催：株式会社インフォマティクス

会期および会場：以下の 10 会場（予定）

2009 年 7 月 7 日（火）東京、10 日（金）大阪、
15 日（水）名古屋、17 日（金）札幌、24 日（金）新潟、
28 日（火）福島、29 日（水）仙台、31 日（金）福岡、
8 月 4 日（火）高松、11 日（火）金沢

詳細および参加申し込みは…

<http://www.informatix.co.jp/sympo09/>

【GIS 関連書籍の書評】

■生活・文化のための GIS（シリーズ GIS 第 3 巻）、
村山祐司・柴崎亮介 編，朝倉書店，2009 年

【奈良大学:酒井 高正】

本書は、2008～09 年にかけて村山・柴崎両氏の編集によって刊行された「シリーズ GIS」全 5 巻のうち第 3 巻で、14 名によって執筆された 12 章（2 つの章が 2 名の共同執筆）から成る。同シリーズは、地理空間情報を高度に活用する社会の実現が近づき、諸分野で GIS を活用できる人材の育成が要請される昨今の状況下で、GIS の理論・技術と実践・応用を体系的に論じた専門書の必要に応えることを目的としている。第 1、2 巻が基礎編、第 3～5 巻が応用編であり、本書は応用



編の 1 冊目の位置づけである。エンターテインメント、ナビゲーション、スポーツ、市民参加型 GIS とコミュニケーション、ハザードマップ・災害・防災、犯罪・安全・安心、医療・保健・健康、考古・文化財、歴史・地理、古地図、教育の各項目から成る「生活・文化」の中身は、まさに趣味・娯楽から日常生活や文化にわたる内容に広くまたがっており、これらの分野における GIS の役割や意義が論じられている。後に続く第 4

巻「ビジネス・行政のための GIS」と第 5 巻「社会基盤・環境のための GIS」が、GIS 技術者プロパーではないものの GIS 関連分野の専門家やサービス提供者の立場での GIS 活用が主眼となっているのとは対照的である。

パソコンあるいはそれに続くインターネットといった情報ツールの市民生活レベルまでの普及は、いわゆる「文系」の人間が使えるようになり、さらに趣味・娯楽や日常生活にまで応用範囲が広がってから一気に進んだといえるが、GIS においてもこの段階に入りつつあるのではなかろうか。「Google Earth」や「カシミール 3D」、あるいは各種 GPS やハンディナビなど、一般向けのソフトやハードなどの入門書や解説書も随分増えたが、これらの分野における GIS の役割や意義を論じる専門書として位置づけられた本書は、類書も少なく意義深い 1 冊である。私事で恐縮だが、文学部に籍を置き、地理学専攻学生だけでなく歴史・文化財・社会学の学生にも GIS を活用して地域に貢献できる力をつけてもらおうという教育の取組を始めようとしている評者にとっても、大変ありがたい励みとなった。

本書の内容を、評者なりに大まかに分けて概観してみる。第 1 章は概論で、GIS がこの分野に入り込んでいく経緯と、GIS の基本的な関連技術やデジタルデータが、簡潔にまとめられている。第 2～4 章は趣味・余暇的な分野で、地図の新しいエンターテインメントとしてのダイナミックな 3 次元 GIS、ナビゲーションシステムの進化の展望、スポーツ施設利用者に関する GIS 分析などから構成される。第 5～8 章は市民生活の分野に関するもので、コミュニケーションツールとしての市民参加型 GIS の課題の考察、災害対応のための基盤技術としての GIS の事例整理と展望、GIS による地理的犯罪分析の動向概観と課題展望、保健医療分野における GIS 応用の概念的整理やデータ解析手法の紹介などが含まれている。第 9～12 章はいわゆる「文系」の学問分野で、考古学研究および文化財保護における GIS 活用の実例と問題点の整理、歴史地理学および隣接歴史系諸科学の研究における GIS 活用の事例と課題展望、古地図を用いた GIS 分析の事例と課題整理、GIS を使った教育と GIS についての教育の事例と活動などが取りあげられている。限りある字数のため、執筆者の意図に添えない点があればご容赦いただきたい。

各章の内容は独立しており、執筆者により課題展望か事例分析かなどスタンスの違いはみられるものの、1 冊でこれら諸分野における GIS の扱いを概観することのできる貴重な書籍である。各章の引用文献欄のほか、第 1 章の本文末尾にも各分野の参考文献が紹介されており、より深い理解を求める読者のためへの配慮がなされているのもありがたい。

GISA-NL No.70 (2009/6/20)

【学会周辺の動向報告】

■GIS 学会代議員の周辺活動報告

【特定非営利活動法人 GIS 総合研究所：川添 博史】

阪神淡路大震災等の教訓を踏まえ、関係省庁の密接な連携の下に GIS の効率的な整備及びその相互利用を促進するため、平成 7 年 9 月、内閣に「地理情報システム(GIS)関係省庁連絡会議」を設置し、GIS の普及のため必要な施策を進めてきた成果が、一般市民に広く浸透しつつある。このような背景の中 GIS 総合研究所の理事でもある川添が非営利活動の成果のひとつとしてご紹介いたします。

①社会福祉協議会における「市民フォーラムおおさか」の活動(<http://www.osakacity-vnet.or.jp/foram/index.html>)

目的：コミュニティにおけるコミュニケーションを増やし、広げ、質を高めていくためのフォーラムを大阪市内各所で実施し、地域やコミュニティを基盤とした「コミュニティ・コミュニケーション」の実践を通して、安心・安全で自己実現できる地域コミュニティづくりを目指し、これを市民フォーラムおおさかと名づけて開催している。

本年度より情報化共有推進研究会を立ち上げコミュニティの活性に貢献したい。

②NPO アワード助成事業（大賞受賞）した、地域 NPO ハートフレンドの依頼により(<http://www.netz.co.jp/heart-fd/purpos.html>)子ども会による「こどものわが町探検事業」と題し清掃活動と防犯マップづくりを通じて感性と協調性を学んでもらう活動を実施。

概要：子ども達が、自分達の町を知り、できるだけ多くの地域の人と出会うために、定期的な清掃活動を実施する。また、清掃活動をしながら、子ども達の目線に基づいて「危険なところ」や「居心地のいいところ」のマップづくりを実施する。小学校区において小学 1 年から 6 年生までの異学年集団の班編成をする。班ごとに担当エリアを決めて防犯マップを作成し、地域の人を招いた子ども達による防犯マップ発表会を開催する。

③キッズデザイン協議会

(<http://www.kidsdesign.jp/W-06kaiin.html>)における「こども OS 研究会」を大阪府産業デザインセンター(<http://pds.oidc.jp/>)と継続協力。こども目線での感性を生かした、ものづくりに貢献したい。地図も感性やデザインが必要な時代に。

④経済産業省インターネット安全教室の講師

日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)、GIS 総合研究所が共催(<http://www.gissoken.org/news-anzen.html>)

子どもや地域のインターネット利用者に安全な使い方と犯罪に巻き込まれないように指導・啓蒙活動の推進支援をしている。

まとめ：福祉、教育、環境など地理空間情報が社会インフラとして有益に活用されることをゴールに GIS 学会と会員皆様のご発展をお祈りいたします。

【事務局からのお知らせ】

■探しています

お支払いいただいた年会費のうち、個人が特定できないものが2件あります。

このままでは、期日中に折角お支払いいただいたにもか

わらず、7月に会費督促のご案内が届くことになってしまいます。

お心当たりの方は、大至急、事務局までご連絡ください。

①会員種別：正会員

取扱月日：5月18日(月)か、19日(火)

※お手許の「郵便振替払込請求書兼受領書」の「受付局日附印」の詳細をお知らせください。取扱店から個人を特定させていただきます。

②会員種別：正会員

取扱月日：5月19日(火)か、20日(水)

※電信支払扱いです。「送金人」欄には所属か研究費の名称と思われる内容が記されています。それをお知らせ下さい。(片仮名 13 文字)

■口座振替で年会費をお支払いのみなさま

既にご案内のとおり、今年度の年会費引落しは 6 月 29 日(月)です。いま一度、口座の残高をご確認くださいようお願いいたします。

なお、来年度以降、手数料無料の口座振替をご希望の方は、事務局までご連絡ください。(折り返し申込書をお送りしますので、期日までに提出いただければ手続き完了です)

■メールニュースへの掲載ご希望の方へ

学会では個人会員を対象に、メールニュースを配信しています。

内容は学会からのお知らせ、関連イベント、公募情報が主ですが、こちらに掲載をご希望の方は、以下の「お送りいただく情報」をご参照の上、事務局までお申し込み下さい。

(ホームページ上でもご案内しております。

<http://www.gisa-japan.org/news/request.html?id=02>)

なお、ニュースの配信は、毎月第 2・第 4 金曜日を目安にしています。

<お送りいただく情報>

イベントの場合

・イベント名 ・URL ・日時(年は西暦/時間は 24 時間表記)

・会場名 ・主催

お知らせの場合

・タイトル ・URL ・内容は 200 文字程度

公募の場合

公募情報の依頼が出来るのは、賛助会員と教育関係の方だけです。

・タイトル ・概要、分野 ・機関名 ・所属

・職名 ・URL (詳細情報)

■会議の場所をご提供します

分科会(SIG)、委員会、支部など、学会活動に関することで会議をしたいが場所が無い...という方は、事務局までお申し出ください。事務局が入居している学会センタービルの地下に、貸会議室があります。予約制ですので、お早目にお問い合わせください。

料金：無料

時間：月曜日から金曜日の 10：00～17：00

注意：インターネットのご利用は出来ません

分科会の連絡先一覧

<p>●自治体：大場 亨（市川市企画部 Tel 047-334-1111 内線2304） E-mail：BZH06512@nifty.ne.jp</p> <p>●空間IT：有川正俊（東京大学空間情報科学研究センター Tel 04-7136-4291） E-mail：arikawa@csis.u-tokyo.ac.jp</p> <p>●ビジネス：高阪宏行（日本大学 Tel 03-3304-2051） E-mail：kohsaka@chs.nihon-u.ac.jp</p> <p>●防災GIS：畑山満則（京都大学防災研究所 Tel 0774-38-4333） E-mail：hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp</p> <p>●モバイル・バーチャルGIS：東明佐久良（大妻女子大学 Tel 042-339-0052） E-mail：shinoaki@otsuma.ac.jp</p> <p>●バイオリージョン：田中和博（京都府立大学 Tel 075-703-5629） E-mail：tanakazu@kpu.ac.jp</p> <p>●土地利用・地価GIS：碓井照子（奈良大学） 事務局：西端憲治（㈱セイコー Tel 0721-25-2728） E-mail：totiriyo-sig@seicom.jp</p>	<p>●時空間GIS：吉川耕司（大阪産業大学 Tel 072-875-3001） E-mail：yoshikaw@due.osaka-sandai.ac.jp</p> <p>●登記GIS：神前泰幸（大阪府土地家屋調査士会 Tel 0724-32-0443） E-mail：hk2000@dream.com 事務局：上田浩（㈱プロジェクト・パル Tel 072-367-4196） E-mail：propal@m4.kcn.ne.jp</p> <p>●地図・空間表現：森田 喬（法政大学 Tel 0423-87-6270） E-mail：morita@k.hosei.ac.jp</p> <p>●セキュリティ：川添博史（特定非営利活動法人GIS総合研究所） 事務局：国司輝夫（特定非営利活動法人GIS総合研究所Tel 06-6464-7077） E-mail：info@gissoken.org</p> <p>●自律分散アーキテクチャ：藤田晴啓（東洋大学 Tel 0276-82-9157） E-mail：fujita-hi@toyonet.toyo.ac.jp</p> <p>●空間的思考研究会：今井 修 （東京大学空間情報科学研究センター Tel 04-7136-4297） E-mail：oimai@csis.u-tokyo.ac.jp</p>
--	--

2009年5月末現在の個人会員 1,224 名、賛助会員 80 社

<p>(3口)㈱パスコ (2口)NTT情報開発㈱ (1口)アイエニウェアソリューションズ㈱、朝日航洋㈱、アジア航測㈱、いであ㈱、㈱インフォマティクス、㈱ウインディーネットワーク、 ㈱ウチダデータESRIジャパン㈱、㈱NTTネオメイト、愛媛県土地家屋調査士会応用技術㈱、㈱大阪府都市工学情報センター、 ㈱大阪土地家屋調査士会、オートデスク㈱、㈱オオバ、かごしまGIS・GPS技術研究所、㈱かんこう、 関東甲信越東海GIS技術研究会、㈱岐阜県建設研究センター、九州GIS技術研究会、協同組合くびき野地理空間情報センター、 近畿中部北陸GIS技術研究会、クボタシステム開発㈱、㈱こうそく、幸陽測量設計㈱、国際航業㈱、国土情報開発㈱、㈱古今書院、 寿精版印刷㈱、GIS総合研究所、GIS総合研究所いばらき、㈱GIS関西、ジェイアール西日本コンサルタンツ㈱、㈱JPS、 ㈱ジオテクノ関西、㈱ジャスミンソフト、㈱昭文社、㈱セラーテムテクノロジー、㈱ゼンリン、㈱総合システムサービス、㈱大設、 ㈱谷澤総合鑑定所、玉野総合コンサルタント㈱、中四国GIS技術研究会、テクノ富貴㈱、東京ガス㈱、東武計画㈱、 東北GIS技術研究会、㈱ドーン、㈱トロピカルテクノセンター、内外エンジニアリング㈱、長野県GIS協会、 にいがたGIS協議会、日本エヌ・ユー・エス㈱、日本GPSソリューションズ㈱、日本情報処理開発協会、日本スーパーマップ㈱、 ㈱日本測量調査技術協会、日本土地家屋調査士連合会、㈱日本地図センター、パシフィック・コンサルタンツ㈱、 ㈱日立製作所中央研究所、㈱ベントレー・システムズ、北海道GIS技術研究会、㈱マップクエスト、㈱松本コンサルタント、 三井造船システム技研㈱、㈱三菱総合研究所、三菱電機㈱、ヤフー㈱、㈱リモート・センシング技術センター 自治体会員：(1口)大阪府高槻市役所、大阪府豊中市役所、経済産業省特許庁、総務省統計局統計研修所、 長野県環境保全研究所、兵庫県尼崎市役所、福岡県直方市</p>	<p>■ 編集後記 ■</p> <p>ニューズレターを担当して2年目になります。この間に、メールニュースも始まり、今後はニューズレターの位置づけが、少しずつ変化していくのだろうと思います。その変化を起こすのは会員の皆様方からのご意見、ご要望です。例えば、このような企画をニューズレターで初めてほしい等、会員の皆様方の声をお聞かせ下さい。 (文責：齊藤 義雄、E-mail:yoshio.saito2@unisys.co.jp)</p>
---	---

支部の連絡先一覧

<p>2008年度～2009年度の支部は以下のとおりです。</p> <p><北海道支部> 支部長：北海道大学 橋本雄一 Tel：011-706-5555 E-mail：you@chiri.let.hokudai.ac.jp</p> <p><東北支部> 支部長：岩手県立大学 阿部昭博 Tel：019-694-2562 E-mail：abe@iwate-pu.ac.jp</p> <p><北陸支部> 支部長：新潟大学 牧野秀夫 Tel：025-262-6749 E-mail：makino@ie.niigata-u.ac.jp</p> <p><中部支部> 支部長：名古屋大学 奥貫圭一 Tel：052-789-2233 E-mail：nuki@lit.nagoya-u.ac.jp</p>	<p><関西支部> 支部長：大阪工業大学 吉川 眞 Tel：06-6954-4201 E-mail：gisa@civil.oit.ac.jp</p> <p><中国支部> 支部長：広島工業大学 岩井 哲 Tel：082-921-5486 E-mail：s.iwai.15@it-hiroshima.ac.jp</p> <p><四国支部> 支部長：高知工科大学 高木方隆 Tel：0887-57-2409 Fax：0887-57-2420 E-mail：takagi.masataka@kochi-tech.ac.jp</p> <p><九州支部> 支部長：鹿屋体育大学 山崎利夫 Tel：0994-46-5362 E-mail：yamazaki@nifs-k.ac.jp</p> <p><沖縄支部> 支部長：琉球大学 宮城隼夫 E-mail：miyagi@ie.u-ryukyu.ac.jp 連絡先：有銘政秀（㈱）ジャスミンソフト Tel：098-921-1588 E-mail：arime@jasminesoft.co.jp</p>
---	---

地理情報システム学会ニューズレター

第70号 ●発行日 2009年6月20日

■発行

一般社団法人

地理情報システム学会事務局

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16
学会センタービル 4階

TEL/FAX 03-5689-7955

E-mail: office@gisa-japan.org

URL: <http://www.gisa-japan.org/>

■ 弥生雑記 ■

活断層調査等により過去の地震活動を知ることができ、文献資料により被害状況を知ることができます。日本は飛鳥～平安時代初期にかけて全国規模の記録の収集・編纂事業があり、その間、実に600余例の地震が記録されています。記録の大半は近畿で発生した地震ですが、新潟の「大地震（なみ/おおいに/ふる）」記事が貞観5年（863）にあり、その被害状況は、2004年10月の山古志を彷彿させる甚大なものでした。こうした様々な知識や経験の蓄積が、今後、きっと役に立つのではないかと思います。次の大会は、新潟県中越地震から5年を経た新潟です。様々な企画を予定しております。元気な新潟へ、是非、お越し下さい。（学会事務局）